栩野正喜の勁草塾・・「ゆでカエル」

世の中は日々の変化で徐々に変わっているように思うが
気が付くと周回遅れになっている
という事がしばしばある。

私も満77才になり、去年7月から相談役となり
経営の第一線から離れようとしているので
周囲の環境変化にも疎くなりつつある
と自覚するようになった。

このまま行くとまるで「ゆでカエル」の話の如く
漫然と過ごして、全てが退化して世の中から逸脱した老人になり
老いて行くことになる
と危機感を持たねばならない。

例えば、一昨年、マンションの立体駐車場解体を機会に自動車レスになり
今は6段変速の自転車を移動手段と活用している。

行動範囲は一挙に狭くなったが、
「移動の自由」
をある程度確保している。

このように、何かをキッカケに変化するには事前準備が必要なので
「現状変革思考」というが、常に、少し先読みして対応策を打ち出し
「創造性」を発揮して新しい世界感をイメージして
「主体性」を持って取り組む
という3要素を意識しておくことが大切である。

そして、何よりも大切なことは
イメージした事に着手して前へ進めることである。

「現状変革思考」は誰でも持っていると思うが
その着想を実行できるとは限らないのだ。

「やろうと思っているけどなぁ」と言っている内に
「福の神様」は遠ざかって「後ろ髪」も見えなくなる
という事態になりかねない。

そして、ズルズルと時間が過ぎて「ゆでカエル」状態になり

手の打ちようがなくなるのだ。

今は「AI」が進化して、誰もが利用できる時代になっているが
例えば、ルーチン化した事務作業を高い人件費で処理していると
コスト・プッシュの経営危機が偲び寄って来るのだ。

決まったプロセスならサブシステム化してAIやプログラムで
自動化できる時代になっているので
浮いたマンパワーを「直接」化に投入する決断がポイントになる。

「何か」をキッカケに「変わる」ということを実行できないと
時代の流れは早くなっているので「ゆでカエル」になってしまう
という事も早まっていると覚悟する必要がある。

【勁草塾のバックログはホームページにあります！】